

第31回土・水研究会 農作物によるカドミウム・ヒ素の吸収とそのリスク管理

2月26日につくば国際会議場で土・水研究会を開催し、約120名の方々にご参加いただきました。国内外において、食品の安全性に対する意識・関心が高まっています。カドミウムについては、食品衛生法に基づくコメの基準が平成23年2月に見直された一方で、コメ以外の農作物についても低減対策の推進が求められています。またヒ素については、農産物からの摂取において、我が国ではコメの寄与が大きいことが明らかになっています。研究会では、農林水産省消費・安全局の青木政典課長補佐による国内及び国際情勢と今後の取組みについての講演に続き、農作物のカドミウ

農環研30周年記念ワークショップ

ム吸収抑制について農環研の成果を紹介しました。また、植物体内におけるカドミウムの動態について、日本原子力研究開発機構の鈴井伸郎博士が動画を交えた講演を行い、島根大学松本真悟准教授からは資材・水管理による水稻のヒ素吸収抑制技術が紹介されました。最後に荒尾から、25年度から開始された農林水産省委託プロジェクト「水稻におけるヒ素のリスクを低減する栽培管理技術の開発」の概要を紹介し議論を深めました。

(研究コーディネータ 荒尾 知人)

第4回農業環境インベントリー研究会

農薬等化学物質のリスク評価を効率的に行うためのインベントリーの構築

農業に不可欠な資材である農薬のリスク評価を行うために必要な「農薬インベントリーの構築」をテーマに、2月27日(木)、つくば国際会議場で研究会を開催し、約90名に参加いただきました。

横浜国立大学の小林 剛准教授の基調講演「化学物質の健康リスク等の情報基盤整備の現状」の後、製品評価技術基盤機構の中村 淳氏から、化審法(化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律)における化学物質の基盤情報の整備について、産業技術総合研究所の林 彰勤氏から、化審法に対応可能な生態リスクの評価管理についてご講演いただき、農業環境技術研究所からは岩崎、永井から、地理情報の暴露評

価への活用、農薬インベントリーの構築と生態リスク評価への活用について報告を行いました。また、総合討論では、データベースの構築、維持、運営上の課題や有効利用について情報交換がなされました。

(農業環境インベントリーセンター長 對馬 誠也)



農環研30周年記念セミナー

核酸から見えてきた農業に役立つ微生物の生態と機能

自然界に生息する微生物のほとんどは、培養が難しい未知の微生物であることが知られています。農環研では、微生物の遺伝情報が書き込まれたDNAやRNA等の核酸分子を、土壤などの環境から直接取り出し、こうした未知の微生物の種類や働きを解析する技術を開発してきました。本公開セミナーでは、農環研30周年の節目を迎え、環境から抽出した核酸によって見えてきた微生物の生態と機能についての研究に焦点を絞り、この分野で先進的な研究を行っている先生方



に講演をいただくとともに、農環研でこれまで得られた研究成果を紹介しました。学生から企業関係者まで様々な立場の164名の方々の参加を得て、アンケート等で貴重なご意見をいただきました。

(生物生態機能研究領域長 藤井 毅)